

コードレス型長時間（最大 14 日間）連続記録心電図レコーダの使用経験

◎森嶋 良一¹⁾、佐藤 妙恵果¹⁾、米田 さおり¹⁾、白土 美佳¹⁾、吉田 秀子¹⁾、田中 忍¹⁾
奈良県立医科大学附属病院 中央臨床検査部¹⁾

【はじめに】

不整脈の診断には心電図検査が不可欠であり、かつ不整脈発生時の記録が必要である。ホルター心電図では 24 時間連続して心電図を記録が可能であるが発作が出現しなければ診断できない。今回我々は 14 日間連続して記録ができ入浴も可能であるコードレス型長時間心電図レコーダの使用する機会を有したので使用した 2 症例をもとに報告する。

【使用機器】

フクダ電子社製のパッチ型長時間心電図レコーダ（eMEMO WR-100）、長時間ホルタ用ディスプレイ電極 TEC-09、ホルタ心電図解析ソフト HPS-100AF を用いた。

【症例】

- ① 30 歳代 男性 症状；「動悸」
- ② 60 歳代 女性 症状；「脈の結滞」

【結果】

孰れの症例においても 24 時間心電図では記録されなかった自覚症状出現時の不整脈が記録され早期診断に繋がった。長時間の装着にも関わらず安定した心電図が記録されてお

り、また電極装着部位における皮膚の状態も特に異常なく、記録器が小型でコードレスのため患者ストレスも低かった。

【まとめ】

14 日間連続記録が可能であるパッチ型長時間心電図レコーダは出現頻度の少ない発作性不整脈の診断に有効である。しかし記録誘導は 1ch のみであり的確な診断には目的とする心電図波形のベクトルに対する電極装着が重要である。また解析には専用のソフトが必要となり、解析編集機能に制限があることから本来の 24 時間のホルター心電図検査と目的による使い分けが必要である。

【考察】

発作性不整脈の診断と治療の中でも特に心房細動のカテーテルアブレーション後の経過観察に重要な役割を果たすと思われる。しかし 1 回の検査で記録器を 14 日間使用することにより検査室では多数の記録器の購入が必要となる事や使用する電極が高額である事から運用方法が課題となる。連絡先—0744-22-3051（内線 4221）